

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|--------------------------------------------------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 司法・犯罪心理学 | | | 17831 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 十倉 利廣 | 選択 | 2 | 法務省心理専門職として犯罪アセスメントや処遇に従事する。少年鑑別所長、矯正研修所長等を歴任する。 | | | |

授業の到達目標

- ・司法・犯罪分野の制度及び同分野の心理臨床の領域を概観できる。
- ・犯罪原因やメカニズムに関する諸理論を理解できる。
- ・警察関係機関、家庭裁判所（少年及び家事）、少年鑑別所、少年院、刑事施設（刑務所）、保護観察所、被害者支援領域における心理臨床業務に関する知識を習得する。
- ・非行・犯罪に関するアセスメント及び処遇技法に関する基礎知識を習得する。
- ・この授業を通して、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を身につける。

授業の概要

司法・犯罪領域における心理臨床の理論や業務を理解するために、犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につけるとともに、司法・犯罪分野の問題に対して必要な心理支援についての基本的知識を身につける。

授業計画

- 1 司法・犯罪心理学の基礎知識
- 2 犯罪心理学理論の進展 1
- 3 犯罪心理学理論の進展 2
- 4 各種犯罪 1 (窃盗)
- 5 各種犯罪 2 (薬物犯罪)
- 6 各種犯罪 3 (性犯罪)
- 7 各種犯罪 4 (暴力犯罪)
- 8 捜査心理学 1 (プロファイリング)
- 9 捜査心理学 2 (虚偽検出, 証言)
- 10 精神鑑定
- 11 家庭裁判所における心理臨床
- 12 少年鑑別所における心理臨床
- 13 少年院・刑務所における心理臨床
- 14 犯罪被害者支援
- 15 まとめ及び試験

授業の方法

講義を中心とする。資料等について、Web上で提供する。
なお、新型コロナウイルス感染症等の拡大状況によっては、授業方

法が変更されることがある。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

適宜レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%
なお、新型コロナウイルス感染症等の拡大状況によっては、評価方法が変更されることがある。

欠席について

原則として、欠席数が5回を超える場合は成績評価対象外とする。

テキスト

毎回講義資料を配布する。

留意事項

なお、新型コロナウイルス感染症等の拡大状況によっては、授業方法や評価方法等が変更されることがあるので、留意しておくこと。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|------------------------------------------------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 健康・医療心理学 | | | 17835 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 石川 慎一 | 選択 | 2 | 精神科、心療内科における診療、保健所での精神保健相談、児童福祉施設での精神医療、産業医活動。 | | | |

授業の到達目標

- ① ストレスと心身の疾病との関係
 - ② 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援
 - ③ 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援
 - ④ 災害時に必要な心理に関する支援
- 以上を習得し、公認心理師資格の取得を目標に行われる講義である。
このクラスではKAISEIパーソナリティの、K（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

公認心理師の国家資格の受験資格要件に必要な科目の1つを提供する。健康保健・医療分野における、心理職に必要とされる心理学的概念とその操作を学習し、そのもとで展開される実際の活動を幅広く理解する。健康心理学、医療心理学の基礎概念である、健康とは何か、疾病予防の考え方、健康増進に対する心理学的なアプローチ、ストレスと心理支援を獲得し、多職種協働の行動様式で実践される健康・医療の様々な現場における心理支援の実践について領域ごとに学ぶ。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 1章 健康医療心理学
- 2章 健康心理学におけるアセスメントと支援
- 3章 ストレスマネジメント
- 4章 各種の心理支援法
- 5章 医療心理学
- 6章 医療心理学におけるアセスメントと支援
- 7章 精神科、児童精神科(精神科コンサルテーション・リエゾン)
- 8章 院内独立型心理室
- 9章 心療内科
- 10章 小児科(母子保健含む)
- 11章 緩和医療
- 12章 産業保健
- 13章 地域保健活動の実践
- 14章 災害医療
- 15章 多職種協働と医療連携

15 1-15章 総括

授業の方法

講義形式で行う。

準備学修

テキストの予習復習、レポートの提出。

課題・評価方法、その他

出席・レポート：60点（各授業、出席2点・レポート2点x15回）
終了時課題：40点
*提出物は期限内に提出されたもののみ採点
*レポートは所定の電子ファイルのみで採点
*出席点は実際に講義に参加した場合のみ加算

欠席について

各授業への欠席、遅刻で2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格。

テキスト

宮脇稔他編『健康・医療心理学』医歯薬出版株式会社

留意事項

本講義は公認心理師カリキュラムの必修科目である。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 産業・組織心理学 | | | 17847 | IV | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 安岡 勇輝 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

人が幸福に働くとはどういうことか、働く上での心理的問題をどう考えるかについて、産業・組織倫理学の知見をもとに深めていく。特に職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援や、組織における人の行動について取り扱う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

産業・組織心理学の知見を学びながら、人が幸福に働くためには何が必要なのか、働く上での心理的問題にどう対応し、どのように支援していくかについて学習する。また、消費者のニーズはいかに成立するのか、その過程についても学習する。

授業計画

- 1 産業・組織心理学の歴史
- 2 ワーク・モチベーション
- 3 採用と面接
- 4 人事評価
- 5 キャリア発達①
- 6 キャリア発達②
- 7 職場のコミュニケーションと人間関係①
- 8 職場のコミュニケーションと人間関係②
- 9 リーダーシップ
- 10 消費者行動とマーケティング
- 11 仕事の能率と安全①
- 12 仕事の能率と安全②
- 13 職場のストレスとメンタルヘルス①
- 14 職場のストレスとメンタルヘルス②
- 15 試験

授業の方法

レジメと教科書を用いて、講義形式で授業を進める。

準備学修

事前に産業・組織心理学の基本的な分野について予習を進めておく

こと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

テキスト

山口裕幸・金井篤子 2007 よくわかる産業・組織心理学 ミネルヴァ書房

参考図書

太田信夫 監修 金井篤子 編集 2017 シリーズ心理学と仕事 産業・組織心理学

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|------------------------------------------------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 精神疾患とその治療 | | | 17851 | IV | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 石川 慎一 | 選択 | 2 | 精神科、心療内科における診療、保健所での精神保健相談、児童福祉施設での精神医療、産業医活動。 | | | |

授業の到達目標

- ①精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）
 - ②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化
 - ③医療機関との連携
- 以上を習得し、公認心理師資格の取得を目標に行われる講義である。このクラスでは、海星パーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

精神医学の考え方、精神医学的診断、精神疾患の治療方法である、薬物療法（向精神薬の種類、作用・副作用等）や心理療法（心理療法の種類、本人や家族への支援等）等について概説する。また、代表的な精神疾患について成因、特徴、症状、経過、治療について解説する。さらに、精神医学の応用例として、コンサルテーションリエゾン、多職種協働、医療連携について学び、公認心理師の精神科医療での役割や業務について理解する。

授業計画

- 1 精神疾患とは
- 2 精神症状のみかた・精神疾患の診断
- 3 精神疾患と薬物療法
- 4 心理療法について
- 5 統合失調症
- 6 うつ病、双極性障害
- 7 強迫症、不安症群
- 8 適応障害
- 9 神経発達症群
- 10 児童・思春期における心理的問題
- 11 女性の心理的問題
- 12 高齢期における心理的問題
- 13 公認心理師の役割
- 14 リエゾン精神医学、多職種協働
- 15 まとめ

授業の方法

テキストを用いた講義形式で行う。毎回課題が出される。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

出席・レポート：60点（各授業、出席2点・レポート2点x15回）
 終了時課題：40点
 *提出物は期限内に提出されたもののみ採点
 *レポートは所定の電子ファイルのみで採点
 *出席点は実際に出席した場合に加点

欠席について

各授業への欠席、遅刻で2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格。

テキスト

公認心理師カリキュラム準拠 精神疾患とその治療 三村将ら編 医歯薬出版

参考図書

専門医がやさしく語る はじめての精神医学 改訂第2版 渡辺雅幸 中山書店 2007

留意事項

本講義は公認心理師カリキュラムの必修科目である。